

## 備蓄品の例

災害復旧までの数日間（最低3日間、可能であれば1週間分）を自足できるよう備蓄しましょう。



水（一人一日3ℓ）

カセットコンロ、カセットボンベ



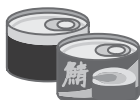
インスタント食品、レトルト食品



電池



常備薬など



缶詰（缶切り不要のものが便利）



懐中電灯・ラジオ



野菜ジュース



暖房器具（毛布、電池式ストーブ）



各種消耗品（トイレトーパー、ボックスティッシュ）

※生活は、人それぞれ異なります。自身の生活に合った種類や量を準備しましょう。



▲日用品などを買い求める多くの人々（9月6日（木）正午ごろ）

◀給油待ちのため、数百人の列をなした車（9月6日（木）正午ごろ）

## 毎日の備え

深夜に発生した「震度5弱」

大きな災害は、時に電気や水道、ガスなどのライフラインを断つことがあります。

また、物資の供給が停滞し、食糧や飲料水などを購入することが困難になる可能性があります。皆さんは、『そのとき』のために備えていますか。

9月6日（木）の地震発生直後から、市内では、復旧のめどがたない停電に不安を感じた多くの人が、コンビニエンスストアやスーパーマーケットで飲料水や調理の必要のない食糧、電池、カセットボンベなどを買い求めていたほか、ガソリ

ンスタンドには、給油のための車が長蛇の列をなしていました。

しかし、地震直後に買い求めた物の多くは、地震が発生する前に備えておくことができたものではなかったでしょうか。備蓄することを何か特別な準備と考えがちではないでしょうか。

備蓄は、日々意識することで、行うことができます。日常の買い物の中で、食べ物や日用品を多めに買い、なくなる前に買い足す。これを繰り返すことで、常日頃から自宅に一定程度の備蓄した状態を保つことができます。必要ときに買い求めるのではなく、少し多めの買い置きが、『備蓄』になります。

また、移動手段としてはもちろん、冷暖房がついた個別空間にもなる自動車についても、定期的に燃料を補給し、一定程度の燃料を常に保つことで、突然の災害へ備えることができます。

市は、9月6日（木）午前5時30分に不安

を感じている市民の皆さんのため、最低限の食糧や飲料水などを準備した『自主避難所』を開設しましたが、住み慣れた自宅においても、災害復旧までの数日間を過ごすことができるよう、備蓄への取り組みをお願いします。

## 今できることが災害時にできるとは限らない

市内において大規模停電が発生した平成24年11月。実際に経験したことで、停電に対する備えをした方も多かったと思います。それから6年。停電に対する備えを、継続できていたでしょうか。

災害に対しては、日頃の備えや意識、知識が重要となります。

市は、市民の皆さんの安全を守るため、日々、気象情報などを注視しながら、万が一に備えています。災害が発生したときに自分の身を守ることができるのは、自分自身です。

2カ月前に、最大震度7を体験した北海道。災害は、テレビの中で起きているものではありません。今回の災害で、自分自身が困ったこと、しておけば良かったと思ったことを『そのとき』のために実際に行動に移しませんか。それが、明日の自分を守るにつながります。